



秋葉原での観光プロモーションの現状

秋葉原観光推進協会理事長 泉 登美雄様

卓話者紹介

木宮 雅徳会員

泉様は、NPO 法人秋葉原観光推進協会 理事長の他、合同会社 AKIBA 観光協議会代表社員、VISIT JAPAN 大使でいらっしゃいます。

◆秋葉原の歴史（創世記）

かつての秋葉原は物流の拠点でした。運河の船だまりから発展し、秋葉原は貨物駅としての役割を果たしました。



関東大震災（1923年・大正12年）後の1928年には、「神田青果市場（1928～1989）」として、野菜の物流の拠点として機能した街に発展しました。



←神田青果市場（1928～1989年）
【参考（Wikipediaより木宮が編集）】

神田川に面する万世橋界隈は江戸時代から繁栄し、万世橋の南側に位置する田町（後の多町、現・神田多町）には、青物商が集まり、17世紀初期（慶長年間）から、田町、連雀町、佐柄木町に散在しており、1657年（明暦3年）の明暦の大火の直前には81軒まで増えていました。明治以降、更に発展し、主に洋服生地を扱う問屋街が周辺に形成され、万世橋駅前の連雀町（今は神田須田町 - 神田淡路町の一部）には、飲食店、寄席、映画館が次々と開業しました。



▲国鉄万世橋駅（1912～1943年）

1912年（明治45年）4月1日、私鉄の甲武鉄道が万世橋駅の営業を開始し、1906年（明治39年）3月31日に国有化されたため、鉄道院の駅となり、万世橋駅の開業によって御茶ノ水 - 万世橋にあった昌平橋駅は役目を終えて廃止されました。

◆秋葉原の歴史（電気街へ）

第二次世界大戦後の焼け野原から出発した秋葉原は、組み立てラジオ用真空管で闇市の露天商が大繁盛。1949年GHQ（占領軍総司令部）の露天撤廃令を受け、真空管やラジオ部品などを扱う露店商が国鉄秋葉原駅ガード下に移転しました。これが、現在のパーツ街、電気街 秋葉原の始まりです。

1950年代半ば頃には、白黒テレビ、電気洗濯機、電気冷蔵庫が、1960年代半ばには、カラーテレビ、クーラー、車が新三種の神器（3C）と呼ばれ、秋葉原は「大量生産・大量消費」と家電ブームにのり、電気の街として急成長しました。

◆秋葉原の歴史（ポップカルチャーの街へ）

1970年代後期、日本で最初の個人向けマイクロコンピューターショップが誕生し、ソニーウォークマンが発売され、1980年代になり外国人向け免税店が増え「Akihabara」が観光地として世界的に有名になりました。PC、ファミコンなどのゲームソフトが普及し始め、90年代には、コンピューター専門店が増加、Windows95発売以後パソコンの街へと急激に変化をとげました。

その後、ゲームソフトのキャラクターデザインやストーリーが進化、アニメやマンガとの相互の影響が顕著になり「ヲタク（オタク）」文化の誕生、「オタクの聖地」となり、2005年には、「AKB48誕生!」、メイドカフェ等の「萌え（もえ）」文化も流行しました。



◆近年の秋葉原（観光都市 AKIBA）

2003年によるこそジャパンキャンペーンが開始され、2007年にNPO法人秋葉原観光推進協会（現在：泉理事長）が発足し、2018年には(株)AKIBA観光協議会を設立し（泉氏が代表）秋葉原の魅力の創出と海外を含む情報発信を民間主体でスタートさせました。

昨年からは、秋葉原観光情報センターのオープン、「秋フェス」と称したプロモーションやイベント、V-tuber（ヴァーチャルユーチューバー）を活用したネットでのPR、秋葉原の公式お土産の創出、esports イベントの創出など様々な活動を推進しております。

今後の秋葉原（AKIBA）にぜひ注目してください。